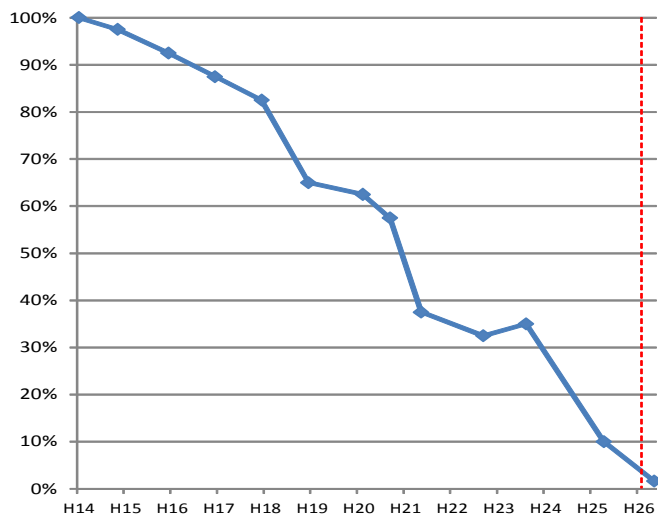


樹種名	ネムノキ		
科 目	マメ科		
学 名	<i>Albizia Julibrissin</i>		
分 布	イラン、アフガニスタン、中国南部、朝鮮半島、日本の本州・四国・九州に自生する。 ネムノキ属は主として熱帯に 150 種ほどが分布するが、その中でネムノキは飛び抜けて耐寒性が強く高緯度まで分布する。温帯で広く栽培され、一部で野生化している。		
樹木特性	陽樹であり、二次林や伐採跡地に生え、ときには河原の砂礫地などのやせ地にも生育する。		
用 途	公園樹、建築・器具材として利用。		
植栽本数/面積 (植栽密度)	320 本／ 0.10ha (2,000 本／ ha)		
特 徴	【樹 形】 ネムノキ（合歓木）はマメ科ネムノキ亜科の落葉高木の肥料木であり、林縁・原野などの日当たりの良い湿地によく生育する陽樹であり、荒地に最初に侵入するパイオニア的樹木である。河原や雑木林に生え、高さは 10m にもなる。芽吹くのは遅いが、成長は他の木と比較すると迅速である。 葉は 2 回偶数羽状複葉。花は頭状花序的に枝先に集まって夏に咲く。淡紅色のおしべが長く美しい。香りは桃のように甘い。 開花時期は 7~8 月に咲き、雄しべは桃紅色、豆果は 10 月に熟し、10~13cm で 10~15 個の種子が入る。 果実は細長く扁平な豆果。マメ科に属するが、マメ亜科に特徴的な蝶形花とは大きく異なり、花卉が目立たない。 樹皮は灰褐色で、褐色の皮目があり、材は柔らかく脆いことから、観賞用の他に、街路樹としても使われることがあり、害虫駆除、鎮痛、家畜の飼料などにも利用される。		
試験地での様子	  ポット苗を植栽し、植栽直後にシカやウサギの食害により壊滅状態となったことから、場所を変えて改植したが結果は同じであった。成長はとても遅い。		
被 害	野兎・鹿による食害が著しい。		

ネムノキ 現存率



【現存率】

植栽直後から野兎・鹿による食害等により枯死が発生している。

このことから、植栽直後の平成 9 年、10 年にわたり補植(120 本)を行ったが枯死した。

さらに平成 14 年に場所を移し改植(180 本)をしたが枯死が発生し続けた。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 1.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

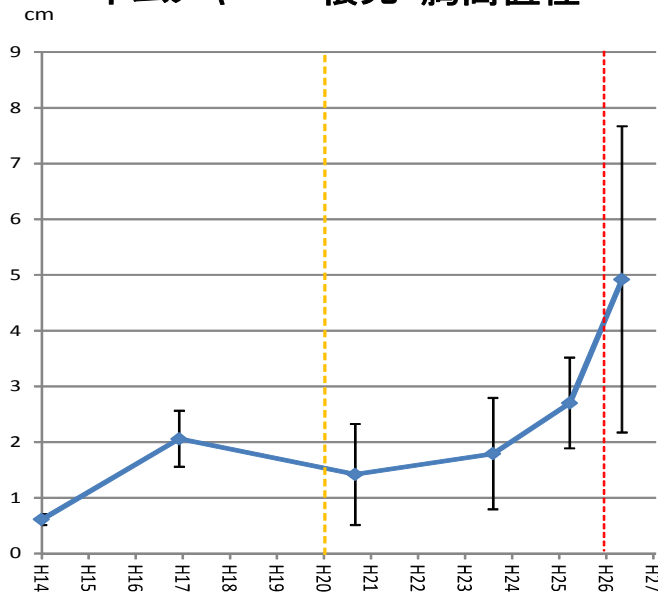
生育は悪い。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、4.92 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ネムノキ 根元・胸高直径



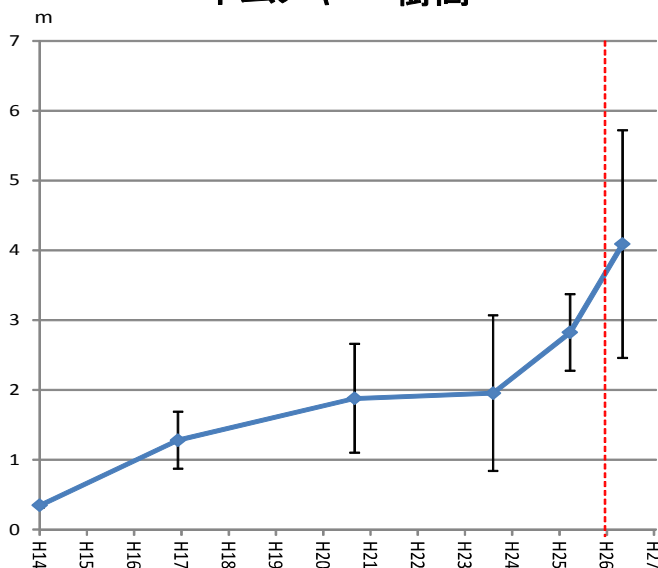
【樹 高】

生育は悪い。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、4.09m であった。

※ 赤線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ネムノキ 樹高



《プチ情報》

中国医学ではネムの花を生薬として用いる。性は平、味は甘であり、精神安定や不眠解消の効果があるとされる。樹皮にはタンニンが含有され、打撲傷に効能があるといわれている。

名は暗くなると葉が垂れ下がり相対する小葉が合わさって閉じ眠ったように見えることに由来する。別名、ネム、ネブと呼ばれる。

和名のネム、ネブは、夜になると葉が閉じること（就眠運動）に由来する。漢字名の「合欝木」は、中国においてネムノキが夫婦円満の象徴とされていることから付けられたものである。